

午前に続き、1日で2回の配信になります。今年は園内の開花が全体的に早くなっています。開花情報はメルマガの他に、ホームページをご覧ください。管理事務所までお問い合わせください。

★ 開花情報

エヒメアヤメ（愛媛菖蒲）アヤメ科アヤメ属（写真1）

愛媛県の自生地が早くから知られていたため、エヒメアヤメと呼ばれており、瀬戸内海沿岸や九州地方にも自生します。4月の開花時は、草丈が5cm程度ですが、夏までにはおよそ30cmまで成長します。三原市の自生地は、自生南限地域として国の天然記念物に指定されています。古名のタレユエソウ（誰故草）は、誰故にこのような可憐な花を咲かせるのかと賛美した名です。

場所：管理事務所前

シナヒイラギ（支那柃）モチノキ科モチノキ属（写真2）

中国大陸原産の常緑低木で、ヒイラギと名がつきますが、モクセイ科のヒイラギとは異なりモチノキ科になるため、ヒイラギモチとも呼ばれます。雌雄異株で、4～5月に淡黄色の花を前年枝の葉腋にたくさんつけます。葉は長方形で四隅と先端に刺がありますが、老木になると角が丸くなり、先端の刺だけが残ります。

場所：管理事務所前

ミツバアケビ（三葉木通）アケビ科アケビ属（写真3左上）

明るい林内や林縁に自生する落葉つる性木本で、高木にも巻き付いて上がります。アケビの名の由来は諸説ありますが、果実が熟すと開くため、アケミ（開実）から訛化したといわれています。葉は掌状複葉で、アケビの小葉は5枚で鋸歯はありませんが、ミツバアケビは名前の通り、小葉が3枚で波状の鋸歯が少し入るか全縁になります。アケビとミツバアケビの雑種のごようアケビは小葉が5枚で、ミツバアケビのような鋸歯があります。花は濃紫色で4～5月に総状花序を伸ばし、写真の様に1～3個の大きい雌花と、先端に小さな雄花を多数つけます。同科のムベ（写真3左下）はトキワアケビとも呼ばれ、葉は常緑で、実は熟しても裂けません。

場所：西ゲート下（ミツバアケビ）、多目的広場（ムベ）

セイヨウバクチノキ（西洋博打木）バラ科バクチノキ属（写真3右）

ヨーロッパ、西アジア原産の常緑小高木で、生け垣や公園樹に利用されます。葉は長さ8～15cmと大形で低く鈍い鋸歯があります。花は総状花序に白い小さな花をたくさんつけます。

場所：苗畑横

★園内開花状況まとめ（サクラ以外）

咲き始め	ハンカチノキ, セイヨウバクチノキ (写真3右), キリシマツツジ, ヒラドツツジ, フジ, ヤマフジ, ジャコウフジ, ケヤキ, ズミ, ナガバモミジイチゴ, ユズリハ 他
見頃	エヒメアヤメ (写真1), シナヒイラギ (写真2), ミツバアケビ (写真3左上), ムベ (写真3左下), ハナカイドウ, キシツツジ, セイヨウシャクナゲ, カリン, リキュウバイ, ナワシログミ, フデリンドウ, キランソウ 他



写真1 エヒメアヤメ (管理事務所前) H28.4.19



写真2 シナヒイラギ (左:雄花 右:雌花) (管理事務所横三叉路) H28.4.19



写真3左上 ミツバアケビ(左:雌花 右:雄花) H28.4.19



写真3左下 ムベ (多目的広場) H28.4.19



写真3右 セイヨウバクチノキ (苗畑前) H28.4.19